

「日米エアフォース友好協会設立 30 周年に寄せて」



航空幕僚長 空将 森田 雄博

書式変更：英単語の途中で改行しない

日米エアフォース友好協会（JAAGA）が設立 30 周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。また、井筒会長をはじめ、名誉会員である歴代第 5 空軍司令官の皆様、並びにこれまで協会の活動に携わってこられた日米すべての会員の皆様におかれましては、共同訓練に臨む隊員への激励や文化交流支援など、多大なるご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

貴協会は、平成 8 年、航空自衛隊と米空軍相互のより良い信頼関係の構築を目的として、空自 OB 有志により設立されたと承知しております。その後、貴協会の活動は年を追うごとに充実し、設立から 30 年を迎えた現在では、「日米現役隊員に対する支援」、「米空軍軍人の日本研修支援」、「現役を交えた日米退役軍人による相互交流」、「日米同盟に関する理解促進のための広報活動」など、多岐にわたる事業を展開されています。我々現役自衛官も、貴協会が企画される各種行事を通じ、米空軍の方々との交流を深めており、私をはじめ、隊員の中には家族ぐるみでの親交を育んでいる

者もおります。年々、日米隊員相互の絆がより強固なものとなっていることを実感しており、誠に喜ばしい限りであります。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく、複雑な様相を呈しています。このような情勢の中、航空自衛隊は本年度中に「航空宇宙自衛隊」へと改編されることとなりました。空及び宇宙領域において、国民の生命と平和な暮らし、そして我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くという使命を果たすべく、その名にふさわしい組織となるよう、更なる能力の向上に努めてまいる所存です。

また、本年は米国にとって**建国**250周年という大きな節目の年であるとともに、在日米軍・米空軍にとっても重要な変革の年と言えます。本年3月、横田基地において実施された第5空軍指揮権交代式において、それまで在日米軍司令官が兼任していた第5空軍司令官が専任化されました。これは、インド太平洋地域の平和と安定にとって日米同盟が重要であること、さらには日米空軍種間の連携が戦略的意義を有することの証左であると認識しております。

このような日米それぞれの変革は、両国の能力向上と連携の強化につながり、その結果として同盟全体の実効性を一層高め、日米同盟を更なる高みへと引き上げていくものと認識しております。そして、両国の紐帯をより強固なものにするためには、共同訓練を通じた相互運用性の更なる向上といった、目に見える取組に加え、相互の友情や信頼、尊敬といった無形の要素も極めて重要であり、こうした無形の要素を醸成・深化する上で、貴協会の果たしてこられた役割は極めて大きいものと認識しております。我々と致しましても、引き続き日米共同の実効性の向上に向けて不断の努力を重ねてまいります。貴協会におかれましては、今後とも航空自衛隊と米空軍との架け橋として、両組織の一層の融和と発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

コメントの追加 [A1]: 防衛省HP、在京米大HPでも「建国」を使用。(日米課)

結びに、貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝並びにご活躍を祈念申し上げ、日米エアフォース友好協会設立30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。